

第2学年2組 音楽科学習指導案

授業者 教諭 内藤 さおり
スクールボランティア 石川 真裕美

- 1 題材名 おはやしのリズムであそぼう
- 2 題材の目標 おはやしの音楽の特徴であるリズムの反復を生かして、おはやしをつかって表現する楽しさを味わう。
- 3 題材でひもとく音楽の要素や仕組み 【問いと答え、反復】

4 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、本物のおはやしに触れることで、リズムの反復や力強い和太鼓の音色、おはやしの躍動感を感じ取らせていきたい。児童は、リズム遊びとの関連を図りながら学習を進めることで、おはやしの特徴であるリズムの反復や問いと答えを生かして、自分たちのおはやしのリズムをつくることができると考える。音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みである反復や問いと答えを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくるには適した教材であると考えている。

(2) 児童の実態（男子18名 女子11名 計29名）

1学期の「リズムってたのしいね」の学習では、三つのリズムパターンの中から選んだリズムを繰り返し打つことを楽しみ、また、三つのリズムを合わせる活動で、リズムを重ねることの面白さを味わい、縦と横のつながりを感じることができた。朝のリズム遊びでは、「休み（休符）を合わせよう。」「リズムボックスに合わせるようにしましょう。」など、拍の流れを意識して合わせようとする姿が見られるようになった。

アンケートは以下の通りである。 (9月調査)

- | |
|----------------------------------|
| 1. リズム打ちのどんなところが楽しいですか。(複数回答) |
| 繰り返しつなげるところ 28人 違うリズムを重ねるところ 25人 |
| みんなと合うところ 29人 |
| 2. リズムを使ってどんなことをしたいですか。(複数回答) |
| 楽器で合わせたい 28人 リズムをつくりたい 23人 |
| 曲に合わせたい 21人 全員で合わせたい 25人 |

アンケートの結果から、リズムを反復したり、重ねることに高い関心をもっていることが分かる。「楽器で合わせたい」「リズムをつくりたい」という思いをもっていることから、意欲的に学習に取り組めるだろうと予想される。

(3) 指導観

本題材は、生活科の「町大すきまつり」や図画工作科の「おみこしをつくろう」、道徳の「町のたからもの」と関連を図った総合単元的な学習「かさ原の町大すき」の取組の一つである。音楽科では、自分たちのお祭りのおはやしのリズムをつかって表現する楽しさを味わえるようにし、指導の効果を高めていきたい。

そのために、まず、地域にある和太鼓の保存会によるおはやしの演奏を聴くなどして、おはやしの特徴である同じリズムの繰り返しや問いと答えの面白さに気付くことができるようにしていきたい。

次に、我が校独自のリズム遊び「おはやし列車」を楽しみながら、自分のお祭りのイメージに合うおはやしのリズムをつくって表現する。そして、自分でつくったおはやしを基に、グループで話し合い、グループのおはやしのイメージにより迫れるリズムに練り上げていけるようにしたい。拍の流れを感じながら合わせるようにスクールボランティア（SV）の協力を得て児童を支援していきたい。

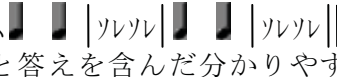
5 教材について

- ・「夜明け」（笠原水神太鼓保存会の演奏曲目より）

 のリズムの反復でつくられているおはや

しである。全身を使った力強い和太鼓の音色やはずんだ感じ、金属の楽器（鉦やチャップ）の音色等のおはやしの音楽の特徴をはっきりと感ずることができる教材である。

- ・「子ども水神太鼓」（笠原水神太鼓保存会の演奏曲目より）

この曲も、2拍子、同じリズム  の繰り返しを中心につくられているおはやしである。問いと答えを含んだ分かりやすい反復の教材である。

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱			
器楽			
創作鑑賞	○	○	○
題材の評価規準	おはやしの音楽に関心をもって、リズム遊びを楽しんでいる。	おはやしの音楽の特徴を感じ取って、音楽表現のイメージをもち、それらを生かした音楽づくりを工夫している。	イメージに合ったおはやしをつくって表現している。
学習活動における具体的評価規準	①おはやしのリズムや和太鼓の音色に関心をもってリズム遊びを楽しんでいる。	①自分の表現したいことについてのイメージをもち、反復の面白さを感じ取る。 ②互いのつくったリズムを聴き合い、よりイメージに合った表現を工夫している。	①リズムの組合せ方やたたき方を工夫して、自分たちのイメージに合ったおはやしをつくって表現している。

7 学習と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次 (1)	○おはやしの音楽に関心をもち、楽し	「夜明け」「子ども水神太鼓」 ○おはやしの演奏を聴き、特徴や面白さに気	ア ①

	くりズム遊びをする。	付く。 ○おはやしのリズムでリズム遊びをする。	
第2次 (1)	○おはやしのリズムを工夫する。	○リズムパターンを組み合わせて、おはやしのリズムを工夫する。	イ ①
第3次 (2) 本時は 第1時	○グループでおはやしのリズムを工夫して表現する。	○グループで互いのリズムを聴き合い、よりイメージに合った表現を工夫する。 ○グループのおはやしを発表し、おはやしの楽しさを味わう。	イ ② ウ ①

8 本時の学習（第3次 第1時）

(1) 本時の学習について

本時の学習では、グループで互いのつくったリズムを聴き合い、おはやしの特徴である反復や問いと答えを生かして、イメージに合ったおはやしを工夫する楽しさを味わわせたい。

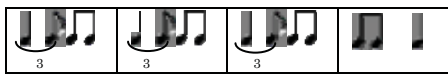
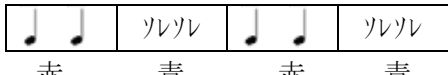
(2) ねらい

グループでおはやしのリズムを工夫して表現する。

(3) 準備・資料

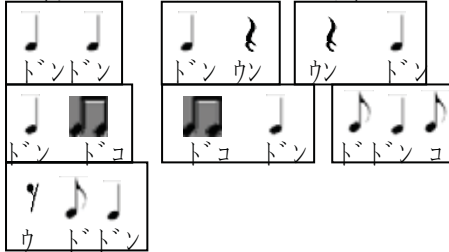
和太鼓、太鼓のばち、工作マット、リズムボックス、
リズムパターンカード、赤青の台紙、譜面台、クラベス

(4) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ(◆学習活動における具体的評価規準)
<p>1 前時につくったおはやしのリズムで、リズム遊びをする。</p> <p>2 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>グループでイメージしたおはやしのリズムをつくろう。</p> </div> <p>3 グループでおはやしのリズムを工夫する。</p> <p>(1)おはやしのリズムの組合せ方を確かめる。</p> <p>(夜明け)</p>  <p>赤 赤 赤 青</p> <p>(水神太鼓)</p>  <p>赤 青 赤 青</p> <p>(2)グループのイメージに合わせたおはやしのリズムを工夫する。</p>	<p>○友達につくったおはやしと一緒に打ちながら、楽しくリズム遊びができるようにする。</p> <p>○おはやしの特徴であるリズムの反復や問いと答えを確認するために、リズムの組合せ方を示す赤青の台紙を提示し、次の活動の手がかりとする。</p> <p>○2種類のリズムの例を示し、そこに様々なリズムを当てはめておはやしをつかっていくことを伝える。</p> <p>○「どんな感じのおはやしにしたいのか」と投げかけ、イメージに合うおはやしのリズムになるよう工夫することを意識付ける。</p> <p>○個人で考えたリズムを基に、つくりかえていくことを伝える。</p>

- ・どんな感じのおはやしにしたいのか確認する。(楽しい, 元気, 力強い, 明るい, にぎやか, 燃える感じ, など)

(リズムパターンカード)



(予想される児童の反応)

- ・みんなが合うように, 簡単なリズムに変えよう。

- ・AさんとBさんのリズムを合わせて,



赤 赤 赤 青

の繰り返しを使おうよ。

- ・お話してるみたいだね。

4 つくったおはやしを発表し合う。

(1) 代表のグループはつくったおはやしを発表する。

(2) 友達のおはやしを聴き, 感想を発表する。

- ・みんなで合わせると元気な感じだ。
- ・繰り返すと, おはやしらしくなる。
- ・友達と仲良く会話しているみたいだ。

5 本時のまとめをして, 次時の学習のめあてを確かめる。

○SVは, グループに寄り添って, 拍の流れを感じ取りながら活動できるように, 声をかけるなどの支援する。

○おはやしのリズムをつくれたグループには, みんなで合わせるように声をかけ, 拍の流れを感じ取って演奏できるように, 手拍子で拍子をとるなど支援する。

○リズムを合わせられないグループには, 何が原因かを投げかけ, おはやしのリズムに無理がある場合は, 再度つくり変えてもよいことを伝える。

◆互いのつくったリズムを聴き合い, よりイメージに合った表現を工夫している。

(イ ②: 話合いの様子の見取り, 演奏の聴取)

○発表するときは, 「どんな感じのおはやしにしたのか」を述べてから発表するよう指示しておく。

○SVは, 発表するグループが2拍子を感じ取って表現できるように, クラベスでリズムを打つ。

○つくったおはやしのリズムが, おはやしのイメージに合っていたかどうかを問いかけ, イメージに合うリズムを意識したことを称賛する。

○次時は, 全グループがおはやしを発表することを伝えて, 意欲をもてるようにする。

9 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断する事例
イ ② 互いのつくったリズムを聴き合い, よりイメージに合った表現を工夫している。	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカードの見取りや, 話し合いの様子, 和太鼓の演奏の聴取からとらえる。 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんな感じのおはやしにしたいのか」「そのためには, どのリズムを使うとよいのか」と投げかけ, 一緒に考える。 ・みんなで作られるように, そばで2拍子の拍を打つ。 <p>【Aと判断する事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> □イメージとリズムの組合せ方との関連を図りながら, おはやしをつくらしている。